

第十回「竹島の日」記念式典における 松本洋平内閣府大臣政務官による挨拶

十周年という節目の年における第十回「竹島の日」の記念式典の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

初めに、本式典の主催者である島根県、島根県議会、そして「竹島・北方領土返還要求運動島根県民会議」をはじめとする関係者の皆様が、二月二十二日を「竹島の日」とし、この十年間、一貫して竹島問題の解決にご尽力されていることに、心から敬意を表します。

竹島は、歴史的事実にも照らしても、かつ国際法上も、明らかに我が国固有の領土であり、竹島問題の解決は、我が国の主権に関わる極めて重要な課題です。政府といたしましては、国民の生命、財産、我が国の領土・領海・領空を断固として守るとの決意の下、竹島問題を、法にのっとり、冷静かつ平和的に解決するために、全力で取り組んでまいります。その際、特に、地元の皆様にとって、故郷（ふるさと）、生活の一部であった竹島に寄せる思いを一層重く受け止め、施策を進めていきたいと考えます。

安倍内閣は、歴代内閣で初めて領土・主権問題担当の大臣を置きました。現在、二代目の山谷えり子大臣のもとで関係府省庁が一丸となって、領土・主権をめぐる我が国の立場について国内外に正確な理解が浸透するよう、国内啓発及び対外発信を強化するための様々な取り組みを繰り広げています。

具体的には、領土教育の一層の充実を図るため、昨年十月、ここ島根県において、全国の四十七都道府県教育委員会の指導主事等を招いて、四日間にわたるセミナーを開催し、島根県における数々の先進的な取組を紹介しました。また、そのセミナーにおいて、竹島とその近海で日本人が漁をしていた頃の様子を描いた絵本「メチのいた島」の作者杉原由美子さんによる読み聞かせ授業を行った模様を内閣官房のホームページ等に公開いたしました。セミナー開催後、出席した教育委員会の指導主事が中心となって、勉強会を開催している県も相当の数にのぼっていると聞いております。また、内閣官房としても、そうした各都道府県における動きを一層促すべく竹島問題等に関する、政府と各都道府県及び各都道府県間の連絡体制の整備も図りました。

また、島根県の方々の協力を頂きつつ、地元に残されている竹島に関する貴重な資料を保全、収集・編纂する事業や、竹島に関する重要な日本の論文を英訳し、オンラインで発信する事業等を着実に推進しております。また、対外的にも、竹島問題に関する理解を一層得るための広報・啓発活動を行っています。

昨年十一月に実施した、政府による二度目の世論調査によれば、竹島を知っていると答えた方は全体の九十五%ですが、関心があると答えた方は六十七%にとどまっています。政府としては竹島問題の日本国民、ひいては国際的な関心を一層高めるべく、より一層効果的な広報・啓発活動を進めてまいります。

なお、韓国について一言申し上げますと、安倍総理も述べているとおり、韓国は我が国にとって最も重要な隣国であり、日韓両国は課題があるからこそ率直に対話を重ねることが重要であると考えます。政府といたしましては、未来志向の日韓関係の構築に向け努力していくこととしています。

我が国の領土である竹島は、政府、地元の皆様のみならず、国民全体で力を合わせて対処する必要のある課題です。政府といたしましては、「竹島の日」が十周年を迎えるに当たり、改めて関係者の皆様方のこれまでのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、引き続き皆様方からのお知恵も頂きつつ、竹島問題の解決に向けて、今後とも粘り強くしっかりとした取り組みを進めていく考えであることを申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

平成二十七年二月二十二日
内閣府大臣政務官 松本洋平